

季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

（第四七五号）

秋分 しゅうぶん

九月二十三日

二つの観月会

昼と夜の長さが等しくなる秋分の日を迎えます。この日、太陽は真東から出て真西に沈むため、「西国浄土」(西の彼方に浄土がある)という仏教の考え方と結びつき、故人を偲ぶ風習があります。お彼岸と呼ばれます。「暑さ寒さも彼岸まで」、暑さも落ち着いてほしいものですが、夜はもっぱら涼しくなりました。

秋は月。澄みわたった夜空には月が輝いています。日本人は古くから旧暦八月十五日の月を「中秋の名月」「望月」と呼び、一年のうちで最も美しい夜とされてきました。平安時代のあの方の和歌が知られます。

この世をばわが世とぞ思ふ望月の

欠けたこともなしと思へば

藤原道長

平安時代のやんごとなき人々が和歌や管弦の遊びとともに望月を愛でた月見。伊勢では、令和の今も雅かな観月会が二つ開かれます。

今年の中秋の名月は、九月二十五日。この夜、伊勢神宮外宮の勾玉池奉納舞台では、神宮観月会が行われます。全国から応募のあった短歌と俳句の秀作を、神宮楽師が冷泉流の古式により披露します。そのあと、管弦と舞楽が披露されます。勾玉池をわたる風に吹かれて、月が昇る様が見られる風流な月見です。

そして、翌日は十六夜。翌々日の十七夜は「立待月」と呼び親しんできました。月の出は毎日五十分ほど遅れていきますので、旧暦八月十七日になると、立って待つほどの間に出るのでこの名が、さらに十八夜は座って待っているうちに出てくるので「居待月」の名があります。

立待月の九月二十七日は、伊勢市の隣、明和町の斎宮で「斎宮観月会」が開かれます。いつきのみや歴史体験館では今年の斎王を迎えた観月の儀が。雅楽の演奏で「月の舞」が披露されます。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○ 第2回 神恩感謝灯りのまつり

日本人の心のふるさとともいえる伊勢の地で、五穀の稔りに感謝する神宮の重要な祭典「神嘗祭」「新嘗祭」を奉祝し、提灯の灯りでおかげ横丁一帯を彩る「灯りのまつり」を開催いたします。

神宮の神様に捧げる、おかげ横丁の秋の祭りの数々を通して、伊勢の秋の情趣を深く味わってみてはいかがでしょうか。

日 時／10月10日(土)～11月24日(火) 提灯の点灯 夕暮れ～20時頃

場 所／おかげ横丁一帯 (入場無料)

※天候や諸事情により、変更又は中止になる場合がございます。

○ おかげ横丁 × YEBISU 「黄金の宴」

「第2回 神恩感謝灯りのまつり」の開催にあわせ、2日間限定の特別企画「おかげ横丁 × YEBISU 黄金の宴」を開催いたします。幻想的な提灯の灯りに包まれながら、3種のエビスビールとおかげ横丁の料理をぜひご堪能ください。

日 時／10月10日(土)・10月11日(日) 9:30～18:30

メイン会場／おかげ横丁内「ゑびす屋台」

当日券(3枚綴り)／2,000円(税込)

【利用方法】1枚につき「ゑびす屋台のエビスビール(1杯700円)」または、下記対象店舗で700円分の飲食券としてご利用いただけます。

【対象店舗】海老丸／団五郎茶屋／ふくすけ／すし久／

伊勢鮎 海さち山さち／はいからさん

※お釣りは出ません

【特典】ご購入の方に「特製エビスタンブラー」をプレゼント！

※両日先着250名様／2日間合計500名様限定です。

お問い合わせ／おかげ横丁総合案内「おみやげや」 電話0596-23-8838

五十鈴塾

○ 「戦国時代の伊勢①」～応仁・文明の乱と伊勢国司北畠氏～

戦国時代は京都の町を焼け野原にした応仁・文明の乱から始まります。群雄割拠の時代で、御遷宮が120年も中断したのです。決して対岸の火事ではなかった戦国時代の伊勢について岡野先生にシリーズでお話しいただきます。1回目は室町幕府と敵対する南朝勢力として生まれた伊勢国司北畠氏が応仁・文明の乱を経て、伊勢守護に任命されるまでの経緯を取り上げます。

日 時／9月28日(月) 13:30～15:00

場 所／五十鈴塾右王舎

講 師／岡野 友彦 (皇學館大学文学部長)

参加費／一般 1,500円 会員 1,000円

講座についてのお問い合わせ・お申込み／電話0596-20-8251

五十鈴茶屋

○ 五十鈴茶屋節気菓子

はつ も み じ
初 紅 葉

伊勢の野山も秋の装いになり、木々の葉が美しく彩り始めました。川面の様子を寒天で表し、伊勢からの秋便りを届けます。

はつ かり
初 雁

「初雁」とは、その年の秋、初めて姿を見せた渡り雁のことです。山芋を使った薯蕷生地で白餡を包み、雁の飛ぶ姿を表しました。

つき よ
月 夜

毎夜少しずつ姿を変える月には、三日月や満月など様々な呼び名があります。こし餡の蒸し羊羹に栗を仕込み、美しい秋の夜空を表しました。